



# 各地雑信

調査員諸君  
何なりと奮  
てつ御通信  
を願ひます

## 鹿島統計事務所研究

統計協會鹿島郡支部では昨冬十一月二十八日鉢田町、同二十九日中野村役場に部會を開催、兩日共縣統計課より同郡擔任の齋藤囑託が臨席した、先づ縣提出の會議事項に依り指示及説明ありて後各村より提出の研究事項に付研究協議を遂げ更に質疑應答を行つた、當日は過般統計事務の優良縣視察の爲縣統計協會より選抜派遣せられた諏訪村の統計主任酒井助役より千葉縣下の統計事務狀況に付詳細報告あつたので各自大いに刺戟され、今後益々發奮して成績の向上發展を期すべく申合せて散會した。兩日の出席者は左の通である

### ▲北部會 (夏海村) 關書記 (大谷村) 石崎助役 (沼前村) 小沼書記 (巴村) 新堀書記 (徳宿村) 高崎書記 (諏訪村) 酒井助役 (鉢田町) 本澤助役、同上書記 (新宮村) 井川主任 (上島村) 中根書記 (白鳥村) 菅谷書記 (大同村) 大崎書記

▲南部會 (中野村) 小澤助役、橋本書記 (波野村) 信田書記 (豊郷村) 笠貫助役 (豊津村) 君和田書記 (鹿島町) 正木書記 (高松村) 木瀧書記 (息栖村) 猿田書記 (輕野村) 山本助役 (若松村) 菅野書記 (矢田部村) 長谷川書記 (波崎町) 野中書記 (諏訪村) 酒井助役

## 那珂東部研究會

那珂郡統計事務所研究會東部支部では十一月二十八日全郡村松村役場に於て研究會を開き、縣統計課より渡邊屬が

(縣統計課) 郡司屬 (那町村長會) 小祝幹事 (町村役場) 小里村佐川村長、白石助役、小田部書記、金郷村荒井書記、世喜村古徳書記、高倉村吉成書記、中里村鶴田書記、賀美村助川書記、金砂村倉澤書記、天下野村根本書記、染和田村鈴木書記

## 西郡統計研究會

統計協會西茨城郡支部統計事務所研究會は十一月廿三日秋色深き西茨城郡北山内村に開催された、縣よりは同郡擔任の成瀬屬が臨席、午前十時五十分開會、主催地として深谷北山内村助役開會の辭を兼ね統計に關する希望と統計擔任者の覺悟に就て一場の意見を述べ次て成瀬屬より米生産統計調査及災害調査其の他一般統計調査に就き詳細なる指導ありて質疑應答をなし午後二時川井副會長の閉辭にて散會した、出席者は左の通りである

(笠間) 大嶺書記 (安戸) 川井囑託 (岩間) 宇津野書記 (北川根) 野口書記 (大原)

## 新治郡統計研究會

新治郡統計事務所研究會では十一月十一日全郡上浦町公會堂に於て人口統計事務の研究會を開催、縣統計課より渡邊屬が臨席午前十時より全郡町村長會村山幹事の開會の挨拶に次で渡邊屬より縣提出の會議事項により詳細説明の後各町村の出入人口の打合せを爲し午後二時三十分閉會した。

出席者氏名  
土浦町尾形書記、全荒木書記、眞鍋町菱沼書記、上天津村大野書記、下天津村松澤書記、美並村松澤書記、牛渡村小泉書記、佐賀村金子書記、安飾村高野書記、志士庫村島田書記、關川村吉田書記、三村海東書記、高濱町石崎書記、田余村井野書記、玉川村野口書記、石岡町富田書記、岡部村眞家書記、瓦會村永瀬書記、

臨席、午前十時卅分鳩村長の開辭に於て渡邊屬から縣提出の農林統計につき詳細説明の後質疑應答を重ね何れも熱心に研究された、出席者左の如し

鳩村松村長、全大内書記、湊町高田書記、全兼田書記、平磯町岡部書記、前渡村大和田書記、中野村横須賀書記、勝田村谷田部書記、川田村鳩書記、佐野村根本書記、石神村根本書記、神崎村川又書記、額田村加藤書記、菅谷村軍司書記、五臺村海野書記、國田村高柿書記、戸田村堀江書記、芳野村綿引書記、木崎村小泉書記

## 久慈郡中部研究會

久慈郡中部統計事務所研究會では十一月二十五、二十六の兩日小里村役場に於て統計事務の研究會を開催した、二十六日には縣から全郡擔任の郡司屬が臨席して縣提出の指示注意事項に就て詳細なる説明があり質疑應答の後午後二時半終了した、出席者は左の通である

林村加藤書記、懸瀬村谷中書記、草柳村新部書記、小幡村櫻井書記、小櫻村君山書記、志筑村岩瀬書記、新治村岡田書記、七會村坂本書記、都利村大越書記、藤澤村小松崎書記、斗利出村酒井書記、山ノ莊村齋藤書記、榮村酒井書記、九重村東郷書記、栗原村國府田書記、中家村横田書記、東村川村書記

## 筑波中部會長決定

筑波郡中部統計事務所研究會では十一月八日同郡上郷村役場に於て定例研究會を開き縣統計課より同郡擔當の岡崎主事補が臨席した、午前九時三十分開會、縣提出事項に就き岡崎主事補より詳細説明の後質疑應答を爲し午後二時五十分閉會せり、尙中部會長缺員の結果之が補充を左の如く決定した

會長 旭村長 直江 與市 (舊) 横田島名村長  
副會長 小野川村長 片岡 彌助 (舊) 直江旭 村長  
出席者左の如し

(谷田部)富澤書記 (福岡)飯泉助役 (眞瀬)宇津野書記 (小野川)成島書記 (旭)佐々木書記 (鳥名)鯉淵收入役、宮本書記 (葛城)中島書記 (上郷)大崎書記 石濱書記

### 鹿島郡支部總會

鹿島郡支部では十一月二日午前十時より鉾田町支部事務所にて總會を開催し、縣より同郡擔任の齋藤囑託が臨席の上、小澤支部長議長となり會則一部改正の件外二件に付審議をなし満場一致之を議決した、それより引き続き米生産統計調査を主とする統計事務の研究に移り、縣より提出の會議要項に依り調査及報告上に付齋藤囑託より詳細な説明があり質疑應答をなし午後一時五十分閉會した、出席者は左の通である

(縣統計課)齋藤囑託 (郡支部)小澤支部長、鬼澤副支部長 (夏海村)今泉書記 (大谷村)石崎助役 (沼前村)小沼書記 (巴村)新堀書記 (徳宿村)高崎書記 (諏訪村)杉本書記 (鉾田町)石上書記 (新

宮村)井川調査主任 (上島村)中根書記 (白鳥町)菅谷書記 (大同村)大崎書記 (波野村)信田書記 (豊郷村)笠貫助役 (豊津村)君和田書記 (鹿島町)正木書記 (高松村)木瀧書記 (息柄村)猿田書記 (輕野村)城之内書記 (若松村)菅野書記 (矢田部村)長谷川書記 (波崎町)野中書記

### 統計調査員異動

(上は新任) (括弧内舊)

昭和十年十月二十五日 新治郡斗利出村

片岡太一 (片岡平四郎) 行方郡大和村

十一月九日 海老澤武男 (今泉龜之助) 筑波郡眞瀨村

十一月三十日 小堀新郎 (江崎岩次郎) 筑波郡眞瀨村

大山森之助 (吉村平重郎) 十一月二十八日 結城郡五箇村

石川文治 (巖志摩次郎) 町村統計主任異動 (上は新任) (括弧内舊)

昭和十年十二月六日 西茨城郡笠間町 成田丑之助 (大嶺松雄)

### 統計課員異動

多年統計課に勤務せられ本會會務委員として會務に盡力せられた蒔利男君は舊臘十二月二十七日商工水産課に轉することとなつた同君の前途多幸ならん事を祈る。尙ほ蒔利の後任には福田信男氏が襲ひ本會委員を囑託された。

### 統計の歌

手賀燒石生

春は嬉しや左にノート右にペン統計調査をいたしましよ(春季調査)

お出〜と唄の麥は穂首揃へて待て居る蝶々留れや菜の花に花も美し實もなりまする早く嫁菜にやりたいけれど娘おた福蠶豆で困るそんなラツキヨウてない事云ふな私あんたにホウレン草よお茶摘む乙女に桑つむ乙女蠶育て、繭つくらせて海外輸出で岡富ませ

### 來るべき總選舉を目標に

### 選舉肅正・棄權防止

### 縣民相率ゐて邁進

昨秋縣會議員選舉を機會に全國一齊に肅正運動が行はれ、本縣においても安藤知事をはじめ官民總動員でこれにあたり相當の効果を收め得たが、更に遠からず行はるべき衆議院議員總選舉を目標に縣民相率ゐて肅正の理想實現に一層邁進すべく本縣選舉肅正委員長安藤知事は昨冬十一月二十六日茨城會館に第三回肅正委員會を開き今後の運動方法等に懇談を遂げ同時に郡肅正會長並に書記等を選任し新春早々の實行に入り市町村及び各種団体の活動を促すと共に各地に講演會部落懇談會等を開き縣をあげて肅正氣分にひたらせてゐる、安藤知事の挨拶要旨及び本縣の肅正委員、郡肅正會長、書記は左の通りである

### 安藤知事挨拶要旨

(前略) 縣會議員總選舉ヲ目標ト致シマシタ選舉肅正運動ハ彙ニ縣ヨリ「選舉肅正運動記録」ヲ以テ詳細報告申上ゲマシタ通り、諸般ノ施設、何レモ極メテ順調ニ行ハレ、之ガ選舉ノ上ニモ反映致

### 選舉肅正委員會委員

(水戸地方裁判所檢察)石井謹爾 (總務部長)山本秋廣 (學務部長)松木茂一 (經濟部長)柴山博 (警察部長)八田三郎 (水戸市長)中崎俊秀 (縣町村長會長)小泉脊 (衆議院議員)山崎猛 (同)石井三郎 (同)風見章 (同)中井川浩 (元縣會議長)天谷丑之助 (縣會議長)石川市郎 (縣會議員)大内竹之助 (縣會議員)江崎保男 (水戸中學校長)塚原末吉 (教育部長)杉田祐四郎 (鹿島神宮宮司)富盛彦 (大學寺住職)板敷光純 (縣信用組合聯合會

會長(濱平右衛門 (水戸商工會議所會頭)江幡新 (茨城縣農會會長)中村哲藏 (縣販賣購買利用組合聯合會會長)高崎三重郎 (日立町)福田重清 (上中妻)小貫義久 (日本國民高等學校長)加藤完治 (行方郡聯合青年團團長)藤岡鐵二郎 (いはらき新聞社長)中崎憲 (常總新聞社長)渡邊弘 (茨城中學校長)本多文雄

◆郡選舉肅正會會長

東茨城(地方課長)坂本宗武 西茨城(庶務課長)宮司功 那珂(社會教育課長)田中確一 久慈(學務課長)右田鐵四郎 多賀(保安課長)增田力 鹿島(會計課長)鳥居延 行方(統計課長)川崎末吉 稻敷(商工水産課長)鈴木俊雄 新治(社事課長)方波見勇 筑波(警務課長)佐藤朝生 眞壁(農林課長)前田稔 結城(特高課長)神崎廣 猿島(健康保險課長)四ッ倉仙治郎 北相馬(刑事課長)岩崎喜一郎

◆郡選舉肅正會書記

東茨城(屬)三木隆太郎 (屬)小澤篤次郎 西茨城(屬)皆藤傳 (屬)皆川泰 那珂(屬)雨谷明 (屬)江幡治 久慈(屬)小林貞 (屬)昭沼節義 多賀(屬)花田三郎 (警部)根本弘二 鹿島(屬)内田直次郎 (屬)吉久保喜夫 行方(屬)方波見連三 (屬)小林綠 稻敷(屬)白石忠良 (屬)三村三郎 新治(屬)金澤雄造 (屬)名越雄一郎 筑波(屬)小澤篤次郎 (警部補)菊池正吉 眞壁(屬)郡司信次 (屬)寺沼英雄 結城(屬)宮本一 (屬)寺本廣作 猿島(屬)皆藤傳 (屬)井上清一 北相馬(屬)龜坂雷光 (警部補)飛田勘次郎



短歌

丹 四 郎 選

『初冬雜詠』

賞

刈り残る洪水後の晩稻田に日癖の西風の吹き荒るるなり  
 北相馬郡東文間村 堀越 宵雪  
 めづらしく風ぎぬる冬のさ庭への落葉木立にひたきぬて啼く  
 北相馬郡高野村 倉持 公太郎  
 寒き風吹き入る北の窓ふたぎ心もゆたに冬籠りすも  
 鹿島郡中野村 大川 貞一  
 しほ釜の烟細くもなりにけり待らし初雪明日はふるらし  
 稻敷郡生板村 大野 芳雄  
 霜除けの小笹かはきて目にしろき庭に出でて月を仰ぐも  
 北相馬郡菅生村 倉持 保光  
 ふりいでし時雨のなかに言あらく電燈工夫働きてをり  
 北相馬郡高野村 倉持 公太郎  
 戻り来しわが家の庭は糶穀を焚ける煙の立ちこめにけり  
 行方郡武田村 堀 草風  
 陽の照れど冷き日なり白々と軒の大根の干し並べあり  
 稻敷郡太田村 五十嵐 康尊

國勢調査美談

賀美村國勢調査員鴨志田子之吉君は十月三日申告書下検査の爲役場に出頭検査を済ませ午後六時頃帰宅すると近所に一週間程親戚廻りで不在の老母が歸つたことを知り、これはとばかり本人宅を訪れ質して見ると「十月一日は四五里離れた某村に滞在中なれど當村の調査員さんがこられたから調べて下さい」といつたら明日歸へるんなら面倒だからあちらでと云ふので「おれのようなおいばれば、あだから、どーでもよいと申告もやらせに二日同所を出発し途中で一晩宿つて今歸つた處だ」と聞かされた。これはしたりと鴨志田君は一人でも調査に漏れては一大事これ迄の努力もだいなしだとして午後八時折柄の瀧の如き豪雨を冒して半里もある役場に馳せ参じ主任に面接し調査事項を詳細記入したのでばあさんの申告漏を免かれた。  
 調査員の努力誠に多とすべきである。

船々とさえ渡りたる月かげに葉すぐりすも冷たき土間に  
 行方郡武田村 堀 勇  
 秋ふけて見ゆるさやけさ月の邊に箒雲夜々をたなびきにけり  
 久慈郡染和田村 豊田 貞次  
 冬山の明るき奥にこだまして薪折る音きこえきにけり  
 行方郡手賀村 曾根 健  
 ぬかるみの庭に敷きたる古薬に今朝白々と霜置きにけり  
 筑波郡大穂村 柳町 梅雨  
 み墓べに南天の實の紅を摘みこぼしつづ吾子いとけなし  
 四 郎  
 (墓 参)

次回題「梅」「冬雜詠」

締切 二月二十日  
 宛名 茨城県廳内統計協會



題「時雨」「風」

ゆつたりと 大風 一つ 風の 空  
 行方郡玉造町 出久根 曉翠  
 前田 猶 春 選

久慈郡染和田村 豊田貞次  
 夕時雨雑木がくれの 吾が家かな  
 行方郡大和村 内田六統生  
 自動車のライト時雨れし街かな  
 同 手賀村 曾根周山  
 枯枝に凧かゝり居り寺の庭  
 同 延方村 黒須惠三郎  
 時雨るゝや山峽のみち人急ぐ  
 同 武田村 境 谿水  
 海遠くうす雲なびく凧の畫  
 同 境 草風  
 凧の子に大海晴れし畑かな  
 西茨城郡大原村 富田 甕生子  
 凧の子のあふぐ眩しき午の空  
 同 北山内村 田中悠峯  
 利根下る船の灯や小夜時雨  
 同 宮本 石籠子  
 山の室時雨にはやく灯しけり  
 北相馬郡菅生村 倉持保光  
 萬兩の實の濡れ色や夕時雨  
 同 高野村 倉持公孫樹  
 遠山や時雨るゝ中の夕あかり  
 同 東文間村 古浪庵 宵雪

庭竹に灯流るゝ時雨かな  
 鹿島郡豊郷村 林 香洋  
 菫織る吾れに灯りし時雨かな  
 同 中野村 大川 貞  
 海遠く夕明りして時雨かな  
 那珂郡盛郷村 高野樂風  
 凧の糸たちまち空へのびつくす  
 同 青木青風  
 ぐんぐんと吾が凧風に上りけり  
 同 飯田 風來坊  
 星のかけかすかにあふぐ時雨かな  
 同 高野 吞風子  
 刈り残す棚田の晩稻時雨けり  
 同 岡山 信雄  
 時雨るゝやざわめき暮るゝ馬の市  
 同 高野 杉村子  
 薪負ふてゆくみち細し夕時雨  
 筑波郡久賀村 關野玄月  
 かゝり凧風に崩れし梢かな  
 新治郡瓦會村 増子よし女  
 アイロンの火の利きすぎて夕時雨  
 筑波郡大穂村 柳町梅雨  
 枯萩の莖ほそくと時雨けり



柳川

山中緋郎選

水戸市袴塚 大高静香  
 夕時雨さびしむ宿の障子かな  
 新治郡瓦會村 増子よし  
 大凧を下ろして暮るゝ人数かな  
 (選者曰) よし女君に二三見るべき句ありたるにとまると、一月  
 號入選句なし

題「正月雜觀」

選者吟  
 旅人に宿の湯あつき凧の畫  
 前田猶春

西茨城郡北川根村 荻沼白鷗  
 萬歳へ笑ひきれない娘が笑ひ  
 新治郡玉川村 上田俊夫  
 小供等と凧揚げて見るお正月  
 行方郡津漆村 大穂 里  
 電線を氣にしてばかり凧を揚げ  
 岡山市 見分汀雨  
 追羽根へちと振袖が邪魔になり  
 鹿島郡豊郷村 林 喜平  
 追羽根へ兄はテニスの型になり  
 東京市四谷區 柳澤鬼月  
 店早く閉めてかるたの聲になり  
 東京市神田區 齋藤ふじ若  
 爽やかな心となつて初詣  
 行方郡武田村 境 草風  
 禁酒する事が出来ない松の内

題『春隣』(春待つ、春近し等)『茶の花』  
 締切 二月二十日迄  
 宛名 茨城縣廳内統計協會

宮城縣志田郡 大友柳歩  
 羽子板をからかふ事も 松の内  
 東京市京橋區 本多鏡丸  
 店先の春ポツクリの音許り  
 京都市下京區 字の狸公三  
 元日の粗惚へ腹も立たぬなり  
 岡山市廳 三木笑路子  
 初夢へ何か嬉しく頬をつき  
 東京市本所區 磯野吟柳  
 電線に一つ更けてる奴 村田柳路  
 八王子市  
 廻禮の叔父を見つけた風が降り

廻禮へ出そびれてゐる島田の娘  
 行方郡玉造町 出久根でく坊  
 ちとでかくした門松を大家見る  
 久慈郡染和田村 豊田一郎  
 初荷いまだ那の酌で飲んで出る  
 京城市黃金町 小島大口坊  
 廻禮は落着く家を腹で決め  
 東京市澁川區 小杉よし純  
 歌留多會では読みますと咳をする  
 筑波郡大穂村 柳町梅羽  
 新妻の料理忙しい松の内

十 秀

東京市本所區 後藤汀舟  
 子には子の集りがある松の内  
 水戸市 大高静香  
 達筆の賀状 恩師を喜ばせ  
 大阪市天王子區 山本葉光  
 洋服に着がへ追羽根負けてゐる  
 埼玉縣人間郡 鹽川枕山子  
 人妻の酌で酔つてる年始客  
 静岡市 寛獨歩

横須賀市深田町 水留港太郎  
 ポマードの匂ひが高い 歌留多會  
 東京市日本橋區 飯田昭芳  
 餅に飽き蜜柑に飽きて松が取れ  
 長野市箱清水 中澤多華思  
 歌留多會綺麗な指に惱まされ  
 東京市王子區 村上亘亨  
 羽子板を置いてバットが一つ賣れ  
 神戸市須磨區 草薙眞一  
 家中の笑顔へ伸びる 雑煮餅

人

神戸市兵庫區 野村勝美  
 歌留多會すねた子だけが寒く居る

地

横濱市磯子區 平井痴翁  
 スイッチを入れつ放しに 宿の春

天

函館市松風町 森三平  
 どの顔も直ぐに笑へる お元日

緋 郎

擦れ違ふ女が 匂ふ 初詣

次號課題 『選挙』

締切 二月二十日 葉書一人五句以内  
 宛名 茨城縣廳内統計協會  
 賞 三才粗賞を呈す

投稿 歡迎

- 一、種類に制限ありません(論説、所感、體驗實記、質疑、文藝其の他) 揮つて投稿されたい 佳作には賞品を呈します。
- 一、用紙は成るべく原稿紙とし文字は明瞭に書かれたらう。
- 一、原稿には住所氏名を明記すること。(但し誌上の匿名は差支ありません)
- 一、原稿の取捨採否は編輯部に一任されたい。
- 一、三月號は二月二十日迄に送付のこと。
- 一、原稿は一切返送しません。
- 一、宛名は「茨城縣廳統計課内茨城縣統計協會編輯部」宛のこと。

編輯後記

『茨城統計』が大きな使命を帯びて生れ出たのは昨年の本月本日である。即ち滿一年、誌齡一つを加へ、號を重ねること七、幸ひに大方各位の懇切なる御指導、深厚なる御援助により、一存在として認められるに至つたことは、洵に喜びに堪へない。厚く御禮を上げると共に、更に一層御鞭撻下

さいますやう切望してやまない。

さういふわけで本月は、本誌にとつては最も意義深い月であり、わけて年の初めの一月である、何か趣向をかへてといふ話もあつたが、マサカ統計の機關誌に漫文や漫詩も載せられないし況んや毎號定めスペースであつてみれば、一行一句たりともおろそかにしてはならぬといふ川崎課長の方針でもあるし、やはり同じやうな體裁のも

のにしてしまつたが、戸島技師の問題視さるゝ無世愛國を頌うることば長畑統計官の大論文等を輯録し得たことは本誌の大きい誇りとするとところである。

統計模範町村訪問記はまだ續けるつもりである、そして諸君が努力のあとを傳へ、諸君の村を、諸君の町を誌上に紹介して世の参考に資したいと思ふ、是亦皆様のお力にお頼りせねばならぬ。富岡如夢！

茨城統計と  
廣告の効果

『茨城統計』は縣下三百八十ヶ市町村及び各市町村の統計調査員三千九百名は勿論縣下各種團體、會社、工場等に配付し、中央各省、道府縣へも漏れなく配付するものにて廣告の効果偉大なるものがあると信じます。

▼本誌廣告料金は左の通りです。  
特別 (一頁(表紙裏表)金貳拾圓  
半頁(同)金拾五圓

普通 (一頁 金拾圓  
四分ノ一 金參圓)

▼同一廣告を引續き二回以上のときは  
一割五分、五回以上のときは二割の  
割引をします。  
▼廣告に寫眞挿入又は木版を要するも  
のは其の費用を別に申受けます。  
▼廣告料は前納に願ひます。

茨城縣廳  
茨城縣統計協會

昭和十一年一月十三日印刷  
昭和十一年一月十五日發行

(隔月一回十五日發行)  
一部金十錢

水戸市北三ノ丸茨城縣廳  
茨城縣統計協會内  
發行兼編輯人 川崎末吉  
水戸市南三ノ丸一〇七ノ二  
印刷所 柴印刷所  
水戸市南三ノ丸一〇七ノ二  
印刷所 柴印刷所

水戸市北三ノ丸 茨城縣廳内  
發行所 茨城縣統計協會